

香川県三豊市

住所	〒767-8585 香川県三豊市高瀬町下勝間2373-1
市長	山下 昭史
HP	https://www.city.mitoyo.lg.jp/
バイオマス産業都市選定年度	2013年度
バイオマス産業都市構想	https://www.jora.jp/wp-content/uploads/2021/02/08_mitoyo.pdf
担当部署	市民環境部 環境衛生課 脱炭素推進室
連絡先 TEL	0875-73-3007
連絡先 FAX	0875-73-3020
連絡先 E-mail	kankyoun@city.mitoyo.lg.jp

三豊市バイオマス産業都市構想 ～ 廃棄物のないまち、環境にやさしいまち“三豊市”の実現～

■ 総面積：222.66km²
■ 竹林面積：1,500ha
 竹賦存量：30,268 t/年
■ 家庭系一般廃棄物：7,800 t/年
■ 事業系一般廃棄物：3,780 t/年
 産業廃棄物（食品残渣等）：8,581 t/年
■ 日照量時間：2,077時間
 日射量：14.4

二つのプロジェクト

- 有機質廃棄物の有効利用
- 竹資源を活用した産業創出
- 再生可能エネルギーの生産拡大

かな地域づくり

- 廃棄物のないまち、環境にやさしいまち三豊市を実現し地域ブランドを確立
- バイオマスを活用した減農薬有機農業の取組み等による地域農業の振興
- 廃棄物系バイオマスを活用する循環型社会の創出
- 未利用バイオマスを活用した新たな産業創出
- 市民・企業・行政が一体となった環境にやさしい地域づくり

一. 有機質廃棄物の有効利用

家庭系一般廃棄物 (7,800 t/年)
 事業系一般廃棄物 (3,780 t/年)
 林地残材等 木質廃棄物 (1,322 t/年)
 産業廃棄物 (食品残渣等) (9,170 t/年)

トンネルコンポスト施設

肥料 (1,250 t/年) 固形燃料 (3,738 t/年)

減農薬有機栽培の推進による地域農業の振興 ハウス加温費用の低減

H25～H27 実施設計、施設整備、試験運転
 H28～ 実運転の開始

<見込んでいる効果>

- 有機肥料の利用による地域農業の活性化
- 加温ハウス栽培におけるコスト低減
- ハウス用ボイラーや入浴施設等で利用していた重油や石炭の利用量を削減
- 製造した肥料の利用による化学肥料の利用量削減
- 循環型社会の形成に向けた市民や企業の意識啓蒙

二. 竹資源を活用した産業創出

竹 伐採・チップ化 (6,000 t/年)

建築廃材 パーティクルボード

H2 (緑と水の環境技術革命プロジェクト事業)
 ・伐採方法、チップ化の最適化
 ・原料用チップ製造方法の確立
 H26～ ・実生産の開始

<見込んでいる効果>

- 未利用バイオマスを利用した新産業の創出
- 竹林の適正管理→有害鳥獣による農業被害解消
- 土壌力による減農薬有機栽培の拡大

竹の利用方法の高度化
 ケミカル利用やエタノール化について、引き続き大学や企業との共同研究を実施。
 (竹から抽出されたエタノール液)

エタノール化

三. 再生可能エネルギーの生産拡大

・新産業の創出
 ・分散型エネルギー供給システムの整備

住宅用太陽光発電 埋肥化

バイオマス利用の目標

	現在	5年後	10年後	20年後
バイオマス全体	42.3%	66.0%	75.8%	87.1%
うち廃棄物系バイオマス	65.5%	85.2%	97.6%	99.9%
うち未利用計バイオマス	14.7%	31.3%	50.2%	72.0%

■ 恵まれた条件を活かした住宅用太陽光発電からメガソーラーまで実施。
 ■ 旧貯水場を活用した洋上太陽光発電、ため池を活用した小水力発電等を検討中。
 ■ 木質のペレット・チップ化等、固形燃料化を拡大。

事業化プロジェクトの概要

名称	有機質廃棄物の有効利用プロジェクト	
実施施設	バイオマス資源化センターみとよ 三豊市山本町神田30番地1	
使用する技術	トンネルコンポスト	
実施体制	プラントメーカー	株式会社エコマスター
	処理能力	43.3(t/日)
	稼働開始年	2017年
	バイオマス原料	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭系一般廃棄物 7,800(t/年) ・事業系一般廃棄物 3,780(t/年) ・産業廃棄物(食品廃棄物) 8,581(t/年)
	原料処理量(t/年)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭系一般廃棄物 7,800(t/年) ・事業系一般廃棄物 3,780(t/年) ・林地残材 1,322(t/年) ・産業廃棄物(食品廃棄物) 9,170(t/年)
	生産物	肥料と固形燃料
	堆肥化製造量	1,250(t/年) 効果：減農薬湯じ機栽培の推進による農業振興
	固形燃料製造量	3,738(t/年) 効果：ハウス加温費用の削減化

